

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

1日

先勝 亢

旧閏6月8日

金曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

が どう おう けい しや ば せ かい

我当往詣 娑婆世界

「我まさに娑婆世界に往詣す」

妙音菩薩は浄華宿王智仏に「娑婆世界に行つて、お釈迦さまにお目にかかつて、そのご苦勞にお礼を申し上げたい」と伝えました。

人の心が乱れた娑婆世界に教えを弘め、浄土を顕現しようと努めるのは容易ではありません。

その容易ならざる努力に対して、他の仏国土の仏菩薩も娑婆世界を訪ね奨励してくださるのです。敢えて苦勞を負うことになっても、正しい教えを弘めようとするこの尊さを説いています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

2日

友引 氏

旧閏6月9日

土曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

によ まつきよう ひ こく

しょう げ れつ そう

汝莫輕彼国

生下劣想

「彼の国を輕しめ下劣の想いを起してはいけない」

浄華宿王智仏は妙音菩薩に「娑婆世界は乱れた心が充満しており、国土は荒れている。仏菩薩たちの身は小さい。それでも侮蔑してはならない」と戒められました。

法華経の地涌の菩薩は地の底から出現しました。これは世の中の悩み苦しみを通り抜け、初めて真実の悟りが開かれたことの象徴です。

それ故、娑婆世界の菩薩たちが汚れているように見えても侮ってはならないと諭されたのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

3日

先負 房

旧閏6月10日

日曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

かいぜ によ らい し りき

皆是如来之力

「皆これ如来の力なり」

妙音菩薩は「自分が娑婆世界に詣でるためには、
浄華宿王智仏さまの力が必要です。どうか導き、
お護りください」と懇願しました。

娑婆世界に詣でるだけでも大変なことであり、ま
して教えを弘めるのはなおさらです。

どのような境遇においても障害なく教えを説く
ためには、仏さまの力を身に負い、仏さまの守護
に安心を得ることが大事であるということです。
苦勞を重ねてこそ菩薩の修行が成就するのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

4日

仏滅 軫

旧閏6月11日

月曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しゅ が ぜん ほん
種何善本

「いかなる善本を植えたか」

「善本」とは仏を信じることです。

私たち凡夫は善悪の判断に迷います。

善と信じることが衝突すると争いになります。

仏さまの智慧をもって判断すれば、衝突を回避

し皆が良い方向に行くことができるでしょう。

時と場合に応じて柔軟に、自分を勘定に入れず、

先を見通し、良い結果に導くのは容易なことで

はありません。

それ故に仏を信じ、仏を目指すのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

5日

大安 尾

旧閏6月12日

火曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

ぎょう が さん まい

行何三昧

「いかなる三昧を行ずる」

「三昧」とは、心を一つの対象に集中して動揺しない状態のことです。

「妙音菩薩がどのような三昧を行じて来たのか」と文殊菩薩はお釈迦さまに質問しました。

文殊菩薩は、妙音菩薩の三昧を見習って自分の立ち位置を確認し、正しい道を歩んでいるか、振り返ろうとしたのです。

そして妙音菩薩に会ったときに、その教えを請いたいと願ったのでした。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

6

日

赤口 箕

旧閏6月13日

水曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しくめつど

たほうによらい

此久滅度 多宝如来

「遠い昔に滅度した多宝如来」

多宝如来は『見宝塔品』にて、お釈迦さまが説く法華経は真実であると証明されました。

『妙音菩薩品』でも、妙音菩薩の徳は高いことを証明するために多宝如来は登場しました。

善いこと、正しいことを証明するためには、公平で立ち振る舞いが美しく、誰からも尊敬される存在でなければ信用を得られません。

多宝如来は多くを語ることはありませんが、非常に徳が高い仏さまであることがわかります。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

7

日

立秋

先勝 斗

旧閏6月14日

水曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しよきよう しよ こく

ろく しゅ しん どう

所経諸国

六種震動

「通過した仏国土の大地が六種に震動した」

妙音菩薩が娑婆世界に到着するまで、たくさんの仏国土を通り過ぎてきました。

その諸国では大地が六種に震動し、七宝蓮華の雨が降り、天から音楽が鳴り響きました。

すべての仏国土の生きとし生けるもののすべてが仏さまの慈悲に感謝し、仏さまの徳に感激していることを表しています。

そして、仏さまの教えがすべての仏国土に広まることを示しているのです。

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

世尊。我当往詣。娑婆世界。礼拝親近供養。釈迦牟尼佛。及見文殊師利法王子菩薩。藥王菩薩。

勇施菩薩。宿王華菩薩。上行意菩薩。莊嚴王菩薩。藥上菩薩。爾時淨華宿王智佛。告妙音菩薩。

汝莫輕彼国。生下劣想。善男子。彼娑婆世界。高下不平。土石諸山。穢惡充滿。佛身卑小。諸菩薩衆。

〈略〉

皆是如來之力。如來神通遊戲。如來功德智慧莊嚴。於是妙音菩薩。不起于座。身不動搖。而入三昧。

以三昧力。於耆闍崛山。去法座不遠。化作八万四千。衆宝蓮華。閻浮檀金為莖。白銀為葉。金剛為鬚。

〈略〉

供養親近礼拝於我。亦欲供養。聽法華經。文殊師利。白佛言世尊。是菩薩種何善本。修何功德。而能

有是。大神通力。行何三昧。願為我等。說是三昧名字。我等亦欲。勤修行之。行此三昧。乃能見是菩

薩。色相大小。威儀進止。唯願世尊。以神通力。彼菩薩來。令我得見。爾時釈迦牟尼佛。告文殊師利。

此久滅度多宝如來。当為汝等。而現其相。時多宝佛。告彼菩薩。善男子來。文殊師利法王子。欲見汝

身。于時妙音菩薩。於彼国没。与八万四千菩薩。俱共發來。所經諸国。六種震動。皆悉雨於。七宝蓮

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

8日

友引 女

旧閏6月15日

金曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しよ

そう

ぐ

そく

諸相具足

「あらゆる善き相が具わっている」

娑婆世界に到着した妙音菩薩の目は青蓮華の葉のように大きく、その顔かたちは月より美しく、身は金色で、多くの功德で莊嚴されていました。これは妙音菩薩の徳の大きさを表しています。徳を具え、智慧を具えれば、その相貌は自ずから有り難く見えてくるものです。さらに大きな慈悲を具えているので、畏れるものもなく教えを弘めることができます。その妙音菩薩もお釈迦さまに帰依されたのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

9

日

先負 虚

旧閏6月16日

土曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

に よ な ら えん けん ご し しん

如那羅延 堅固之身

「那羅延の堅固の如し」

「那羅延」は、バラモン教・ヒンドゥー教の神ヴィシュヌが、仏教に取り入れられ護法の善神とされたものです。

大力があり天上界の力士といわれています。

天下無敵の那羅延の強さは、畏れるもののない
仏菩薩の堅固な力に喩えられます。

「那羅延の堅固の如し」とは、妙音菩薩には誰も
畏れることなく教えを弘める徳と慈悲が具わっ
ていることを示しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

10日

仏滅 危

旧閏6月17日

日曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

し だい ちよう わ

四大調和

「四大の調和が取れた健全な状態」

「四大」とは、物質の構成要素のことで、地・水・火・風の四種を指します。

「地」は堅さを性質とし物質を保つもの、「水」は湿性をもつもの、「火」は熱を性質とし成熟の作用をもつもの、「風」は動作を性質とするもの。

人間の身体も四大によってつくられたものときれ、身体健全な状態を「四大調和」といい、四大のバランスが崩れることを「四大不調」といい、病の原因と考えられています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

11日

大安 室

旧閏6月18日

月曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

ふ

しょう

ご

じょう

ふ

不摂五情不

「五情を摂(おさ)めざることなしや否や」

「五情」は眼耳鼻舌身の五感から生じる欲、「摂」は「取り込む」という意味です。

「不摂五情不」とは、欲望のままにやりたい放題になっていないかを省みるとともに、欲望を抑えすぎて心を壊してはいないかも考えなければならぬという意味です。

仏教では禁欲生活を勧めてはいません。

欲望を無くすまで行かなくても、執着して真実を見失わないようにしなければなりません。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

赤口 壁

旧閏6月19日

12日 火曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しゅじょう のう ごうぶく

しよ ま おん ふ

衆生能降伏 諸魔怨不

「衆生はよく諸々の魔怨を降伏するや否や」

「魔怨」とは一切の障害のことです。

「魔怨を降伏する」とは、善い事をしようとする障害を取り払うことです。

鬼や悪魔を追い払うのではなく、自分の内にある怠け心・おごり高ぶる思いの方が「魔怨」になり得るのです。

ある程度努力をして「もうよいだろう」と手を抜いたり、自分は悟ったつもりになって前に進もうとしない気持ちちが魔怨なのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

13日

先勝 奎

旧閏6月20日

水曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

かん にん く じゅう ふ

堪忍久住不

「堪忍して久住したもうや否や」

浄華宿王智仏が多宝如来に訊ねた言葉です。

人の善を証拠立てるということは、忍耐強くその人を観察していなければできないことです。

他者の善行を認めるためには、自分も何が善であるかを見極めていなければなりません。

多宝如来は「証明仏」といわれています。

お釈迦さまの教えが正しいことを忍耐強く観察しながら、自身も何が正しいのかと常に突き詰めているのが多宝如来なのです。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

14日

友引 婁

旧閏6月21日

木曜

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

によのういくよう

しゃか むに ぶつ

ぎつちようほけきよう

汝能為供養

釈迦牟尼佛

及聴法華經

びようけんもんじゆしりとう こらい しし

并見文殊師利等

故来至此

「末法に生まれた私たちが守るべき三つの条件」

多宝如来が妙音菩薩に告げられた末法に生まれた私たちが守るべき三つの条件です。

①お釈迦さまのご恩に報いるように供養する

②法華經を聴き、自分の生き方の方針を立て怠ることなく学ぶ

③法華經の教えを実践している文殊らの菩薩に見習って励む

この三つの条件を満たすように仏道修行に励み、仏さまに近づきましょう。

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

諸相具足。如那羅延。堅固之身。入七宝台。上昇虚空。去地七多羅樹。諸菩薩衆。恭敬圍繞。而來詣此娑婆世界。耆闍崛山。到已。下七宝台。以𦰩直百千瓔珞。持至釈迦牟尼佛所。頭面礼足。奉上瓔珞。而白佛言。世尊。淨華宿王智佛。問訊世尊。少病少惱。起居輕利。安樂行不。四大調和不。世事可忍不。衆生易度不。無多貪欲。瞋恚。愚痴。嫉妬。慳慢不。無不孝父母。不敬沙門。邪見。不善心。不攝五情不。世尊。衆生能降伏。諸魔怨不。久滅度多宝如来。在七宝塔中。來聽法不。又問訊多宝如来。安穩少惱。堪忍久住不。世尊。我今欲見多宝佛身。唯願世尊。示我令見。爾時釈迦牟尼佛。語多宝佛。是妙音菩薩。欲得相見。時多宝佛。告妙音言。善哉善哉。汝能為供養。釈迦牟尼佛。及聽法華經。并見文殊師利等。故來至此。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

15日

先負 胃

旧閏6月22日

金曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

い じゅうまんしゅぎかく

くよう うんらい おんのうぶつ

以十万種伎楽。供養雲雷音王佛。

びようぶじよう

はちまん しせん しつぽうばち

并奉上。八万四千七宝鉢

「十万種の伎楽と八万七千の宝鉢を供養」

妙音菩薩は過去世において十万種の伎楽と八万七千の宝鉢を雲雷音王仏に供養しました。

「伎楽（演奏と舞踊）」は善行を積む行為を音楽に喩えてた表現です。

「鉢」は供養を受け取る器のことで、供養を受けるほどの働きをしてきたことを指しています。

さらに妙音菩薩はたくさんのおさまに仕え、今は浄華宿王華仏の国に生まれ、教えを弘めているのでした。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

16日

仏滅 昂

旧閏6月23日

土曜

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

みようおん

ぼ さつ

さんじゅう し しん

妙音菩薩の三十四身①

「妙音菩薩の三十四の変化」

妙音菩薩は三十四に変化して衆生を導きます。

その姿は、梵天・帝釈・自在天・大自在天・天大
將軍・毘沙門天などの天界の王、轉輪聖王・小王・
長者・居士・宰官・婆羅門及びその婦人・比丘・
比丘尼・優婆塞・優婆夷の仏教徒・童男童女など
人間界の者、天・龍等・夜叉・乾闥婆・阿脩羅・
迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽・人非人等の八部衆、
さらには地獄・餓鬼・畜生にまで変化し、救済の
手を差し伸べています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

17

日

大安 畢

旧閏6月24日

日曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

みようおん ぼ

さつ

さんじゅう

し しん

妙音菩薩の三十四身②

「妙音菩薩の三十四身の導き」

妙音菩薩の三十四身は、様々な境遇や思想・行動にとらわれることなく自由自在に教え導くことを表しています。

私たちも仏さまと心が通じ、仏さまと同じ大きに慈悲心があれば、それぞれの立場で人を導く力が身に付いてくると思います。

また、心が乱れ地獄・餓鬼・畜生の三悪道に堕ちた相手にも寄り添い、見捨てることなく導き救い上げることができるとも説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

18日

赤口 鶯

旧閏6月25日

月曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

し
しょう しん
四聖身

「声聞・辟支仏・菩薩・仏の四聖の身にも変化」

妙音菩薩は三十四身だけではなく声聞・辟支仏・菩薩・仏の「四聖」の身にも変化します。修行法に忘れて法を説くというのです。さらに「滅度を以て得度すべき者には滅度を示す」とあり、仏として導いた後、滅して平安の境地に入った姿を見せるとも説かれています。仏の滅度を知った者は自力で修行に励まねばならない心を強く持つようになるからです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

19日

先勝 参

旧閏6月26日

火曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

げん いっ さい しき しん ざん まい

現一切色身三昧

「すべての現象に仏の教えがあるという境地」

「現一切色身三昧」とは、すべての現象を通して
仏の教えが語られていると受止める境地です。

相手に応じて優しく応じたり、厳しく応じたり
しながら、その時々に応じて適切に教えを説く
ために、妙音菩薩は「三十四身」「四聖身」という
種々の容姿を現すことができるのです。

妙音菩薩の出自を知った八万四千の菩薩たちも
「現一切色身三昧」を得て、衆生を導く力を得た
と説かれています。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

20日

友引 井

旧閏6月27日

水曜

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

還^{げん}歸^き本^{ほん}土^ど

「妙音菩薩は本土に戻り報告した」

妙音菩薩は娑婆世界から淨華宿王智仏の仏国土
に戻り報告をします。

他の仏国土からこの娑婆世界にやってきてお釈
迦さまの教えを聴聞したということは、仏の教
えと悟りは、仏国土が変わっても皆同じである
ということを示しています。

私たちが暮らす世界においても、国が変わり、時
代が変わっても、仏教の真理は変わらないとい
うことも表しています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

21日

先負 鬼

旧閏6月28日

木曜

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

しまん にせん てんじ

とくむしようぼうにん

四万二千天子。得無生法忍。

けとく ぼさつ

とくほつけ

さんまい

華徳菩薩。得法華三昧

「妙音菩薩品の功德」

他の仏国土からやってきた妙音菩薩について、お釈迦さまが語ったとき、四万二千人の天子たちは「得無生法忍」を得ました。

「生」とはあらゆる人間の変化を指し、「無生」とは不生不滅の真理、「忍」とは認知、「得無生法忍」は不生不滅を認め、変化に動じない心の悟りを得ること、すなわち菩薩の悟りを意味します。また、華徳菩薩は法華三昧を得ました。

真実の教えを実践する覚悟を得たのです。

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

妙音菩薩。於万二千歲。以十万種伎樂。供養雲雷音王佛。并奉上。八万四千七宝鉢。以是因緣果報。今生淨華宿王智佛

〈略〉

妙音菩薩。其身在此。而是菩薩。現種種身。处处為諸衆生。說是經典。或現梵王身。或現帝釈身。或現自在天身。或現

大自在天身。或現天大將軍身。或現毘沙門天王身。

〈略〉

乃至於王後宮。變為女身。而說是經。華德。是妙音

〈略〉

若忘以声聞形。得度者。現声聞形。而為說法。

〈略〉

而為現形。乃至忘以滅度。而得度者。示現滅度。華德。

〈略〉

住何三昧。而能如是。在所變現。度脱衆生。佛告華德菩薩。善男子。其三昧。名現一切色身。妙音菩薩。住是三昧中。

能如是饒益。無量衆生。說是妙音菩薩品時。与妙音菩薩俱來者。八万四千人。皆得現一切色身三昧。此娑婆世界。無量

菩薩。亦得是三昧。及陀羅尼。爾時妙音菩薩摩訶薩。供養釈迦牟尼佛。及多宝佛塔已。還歸本土。所經諸国。六種震饒

〈略〉

現一切色身三昧。說是妙音菩薩。來往品時。四万二千天子。得無生法忍。華德菩薩。得法華三昧

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

22日

仏滅 柳

旧閏6月29日

金曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

かん ぜ おん ぼ さつ
観世音菩薩

「娑婆世界にて苦難の衆生を救済する菩薩」

観世音菩薩は、浄土教では勢至菩薩とともに西方極楽浄土に住する阿弥陀仏の脇士でした。

しかし、お釈迦さまの法華経の説法を聴聞して阿弥陀仏の教えが「未顕真実」であるという事実を知り、この娑婆世界において法華経の行者の守護を誓い、お釈迦さまから補陀落山を住所と定められたとされています。

『観世音菩薩普門品』では娑婆世界にて苦難の衆生を救済することを説かれています。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

23日

処暑

先勝 張

旧7月1日

土曜

妙法蓮華経觀世音菩薩普門品第二十五

普門

ふもん

「いつでもどこでも開かれている門」

「普門」とは。いつでもどこでも開かれている門で、誰もが入ることができる救いの門です。

その門をくぐる条件は「信心」です。

門の中に入ることを拒まれなくても、どんなに有難く尊い教えだとしても、それを頭から疑ってかかったのでは何の意味もなく、喜びも救いもありません。

まずは「信じて疑わない」ということから始めるのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

24日

友引 翼

旧7月2日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

無^む尽^{じん}意^に菩^ぼ薩^{さつ}

「衆生救済の尽きることのない意志を持つ菩薩」

無尽慧・無量意とも訳され、衆生救済について尽きることのない意志を持つ菩薩といわれます。

密教の「金剛界曼荼羅」や『大集経』にも登場し、左手をにぎって腰につけ、右手に花雲を持った形で表現されます。

『観世音菩薩普門品』に登場する無尽意菩薩はお釈迦さまに「何の因縁をもって観世音と名づくるや」と質問して問題提起をしたのは、衆生救済の意志の強さの表れだと思います。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

25日

先負 軫

旧7月3日

月曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

いが いんねん

みようかん

ぜ おん

以何因縁

名観世音

「いかなる因縁で観世音と名付けられたのか」

「観」は観察すること、「世音」は世間の人々の声のことです。

悩みや苦しみを訴える多種多様な声の一つひとつを詳しく観察して、救いの手を差し伸べてくださることから「観世音菩薩」と名付けられたのです。

一心に「観世音菩薩」の名を称えるならば、その声を聞いて、どのような者に対しても救ってくださる「普門」を開いているのです。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

26日

仏滅 角

旧7月4日

火曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

火難

「火も焼くことなく」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第一は「火難」です。

火災の原因の多くは火の不始末です。

そこで心に油断が生じさせないようにと火災除けの御札に「火不能焼」の文が用いられます。

また、貪瞋痴の三毒が原因で「心の火事」を起こさないように、瞋りの炎に包まれる前に観音さまのお名前を呼び、頭を冷やせという意味もこの「火不能焼」にはあると思います。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

27

日

大安 亢

旧7月5日

水曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

すい なん

水難

「大水に漂うことなく」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第二は「水難」です。

水難事故に遭い大海原を漂うことになったらどれほど心細いでしょう。

水難よけの御札には「水不能漂」の文が用いられ漁師の信仰を集めています。

気候変動で大雨による大水害も増えています。

また、欲望の海に溺れ漂いそうになったときにも観音さまを念じ、自分を見つめましょう。

法華經 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

28日

赤口 氏

旧7月6日

木曜

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

ら せつ なん

羅刹難

「悪鬼に捕らわれることなく」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第三は「羅刹難」です。

交易のため七宝を積んだ船が暴風に遭い、羅刹（悪鬼）が住む島に流されても、観音さまの名を呼べば難を逃れることができると説かれています。

もし文化も習慣も違う、言葉も通じない異国に放り出されたら、大きな恐怖を感じるでしょう。悪鬼とは心の中に住む恐怖や猜疑が生み出すもの、平常心を取り戻し冷静に判断しましょう。

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

爾時無尽意菩薩。即從座起。偏袒右肩。合掌向佛。而作是言。世尊。觀世音菩薩。

以何因緣。名觀世音。佛告無尽意菩薩。善男子。若有無量。百千万億衆生。受諸苦

惱。聞是觀世音菩薩。一心称名。觀世音菩薩。即時觀其音声。皆得解脫

若有持是觀世音菩薩名者。設入大火。火不能燒。由是菩薩。威神力故。若為大水所

漂。称其名号。即得淺处。若有百千万億衆生。為求金銀。瑠璃。碑礫。碼碯。珊瑚。

琥珀。真珠等宝。入於大海。假使黑風。吹其船舫。飄墮羅刹鬼国。其中若有。乃至

一人。称觀世音菩薩名者。是諸人等。皆得解脫。羅刹之難。以是因緣。名觀世音

若復有人。臨当被害。称觀世音菩薩名者。彼所執刀杖。尋段段壞。而得解脫。若三

千大千国土。滿中夜叉羅刹。欲來恼人。聞其称觀世音菩薩名者。是諸惡鬼。尚不能

以。惡眼視之。況復加害

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

29日

先勝 房

旧7月7日

金曜

妙法蓮華経妙観世音菩薩普門品第二十五

とう じょう なん

刀杖難

「刀が段々に折れて難を免れる」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第四は「刀杖難」です。

日蓮聖人が龍口法難で首を斬られそうになったとき、刀が段々に折れて難を免れたことが刀杖難に重ね合わされています。

この話は、日蓮聖人に諸天善神の御守護があったという面と、首を斬ろうとした相手を改心させるほどの大きな徳を日蓮聖人から感じ受けたという面があると思います。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

30日

友引 心

旧7月8日

土曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

鬼難

きなん

「鬼に害されることはない」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第五は「鬼難」です。

世界中が悪人や鬼に満たされていても、観音さまを念ずれば害されないと説かれています。

鬼のように心が荒み、乱暴な相手に対しても、仏さまの慈悲心をもって臨めば害を与えることをためらうでしょう。

逆に自分の心に鬼が住んでいれば、鬼と鬼の争いになることでしょう。

法華経 日めくり

令和7年 乙巳

2025年

8月

31日

先負 尾

旧7月9日

日曜

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

枷鎖難

「枷鎖に拘束されても解放される」

『観世音菩薩普門品』に説かれる七難の第六は「枷鎖難」です。

「枷」は首・手・足などにはめて身体の自由を奪うもの、「枷鎖」は枷を鎖で繋ぎ拘束することです。無実の罪で枷鎖に繋がれとしても、観音さまを念ずれば解き放たれると説かれています。私たちも日常の中で心に不満を抱き、枷鎖に拘束されていると感じることはありませんか。そんなときには観音さまを念じましょう。

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

若有持是觀世音菩薩名者。設入大火。火不能燒。由是菩薩。威神力故。若為大水所漂。稱其名号。即得淺处。若有百千万億衆生。為求金銀。瑠璃。砮磲。碼瑙。珊瑚。琥珀。真珠等宝。入於大海。假使黑風。吹其船舫。飄墮羅刹鬼国。其中若有。乃至一人。稱觀世音菩薩名者。是諸人等。皆得解脫。羅刹之難。以是因緣。名觀世音

若復有人。臨当被害。稱觀世音菩薩名者。彼所執刀杖。尋段段壞。而得解脫。若三千大千国土。滿中夜叉羅刹。欲來恼人。聞其稱觀世音菩薩名者。是諸惡鬼。尚不能以。惡眼視之。況復加害

設復有人。若有罪。若無罪。杻械枷鎖。檢繫其身。稱觀世音菩薩名者。皆悉斷壞。即得解脫。若三千大千国土。滿中怨賊。有一商主。將諸商人。齎持重宝。經過險路。其中一人。作是唱言。諸善男子。勿得恐怖。汝等应当。一心稱觀世音菩薩名号。是菩薩。能以無畏。施於衆生。汝等若稱名者。於此怨